

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7 11  
府教育会館704号  
(TEL)6765-8904  
(FAX)6765-8905

## 府教委 「評価・育成システム」の評価および評価基準を一方向的に改悪 教育こわす 「『システム』改定」は撤回せよ

府教委は、3月29日、「評価・育成システム実施要領」の改正及び、教職員の評価・育成システム「手引き」の送付について、通知を各府立学校の校長・准校長宛てに発出しました。  
その内容は、別掲囲み「今回の主な変更」とおりです。

### 1. 「教職員アンケート」結果を口実に評価および評価基準を変更

府教委は、今回の「改正」を発出した理由として、昨年8月に実施した「教職員の評価・育成システム」に関する教職員アンケート調査の結果を分析し、「平成30年度からの実現を目指すもの」として、自己申告票等、評価基準が伝わりやすい表記や様式等の工夫、手引き等の整備など教職員への情報提供の充実、評価者に求められるスキルに重点を置いたテーマ別研修等の実施、学校運営に関するシートの提出方法等の工夫の4点をあげ、その具体化として変更したと説明しました。

### 2. アンケート結果をねじまげ、「評価」の「客観性」を一層損なうものに

2月に府教委は、「教職員アンケート」の結果を公表し、「評価者・被評価者ともに肯定的な意見が増加し、制度が適切に運営されているに定着」などの見解をまとめました。しかし、「評価・育成システムは意欲・資質能力の向上につながっているか」と、「評価・育成システムは教育活動等の充実及び学校の活性化につながっているか」の設問に対して、「全くつながっていない」「つながっていない」と回答した被評価者は、66.8%（前回2010年調査時65.3%）、72.5%（前回68.6%）に達しました。「評価・育成システム」は教育になじまないと感じている教職員が依然として多数を占めていることが改めて明らかになりました。また、あなたの意欲の向上に最も影響すると思うものは何か（複数回答可）

に対する被評価者の回答の上位は、第1が児童生徒の成長（54.6%）で、第2は、職場の人間関係（33.1%）で、評価・育成システムの「評価結果の給与反映」（14.9%）や「評価結果」（5.9%）は低位にとどまり、教職員は目の前の子どもたちの成長・発達のために日々子どもたちと接しており、システムの評価や賃金リンクは二の次だということも示されました。府教委のアンケート結果の分析は、公正で客観的な検証とは程遠いもので、極めて恣意的なものと言わざるをえません。

今回の変更は、評価者の意に沿わない教職員の評価を恣意的に下げ、教職員に数値目標を押しつけるなど、管理を強めるとともに、下位評価者を増やすねらいをもちています。

### 3. 改定のねらいは教職員の管理強化と下位評価者を増やすこと

今回の「改正」は、アンケート結果をねじまげ、「システム」のもつ矛盾と問題を一層拡大することは明らかです。また、このような労働条件に関わる重大な変更を正式な交渉の対象とせず、団体に説明さえもおこなわない府教委の姿勢自体、不当極まるものです。大障教は今回の変更の問題点を厳しく追及するとともに、その撤回を求めてとりくみをすすめます。

【今回の主な変更】

【自己申告票の目標の達成状況】	
(改正前)	(改正後)
上回っている	十分上回っている
概ね達成している	達成している (概ねをとる)
達していない	達していない
【業績評価 評価基準】	
(改正前)	(改正後)
S 目標を上回っている	S 目標を十分上回っている
A 目標を概ね達成している	A 目標を達成している (概ねをとる)
B 目標を達していない	B 目標を達していない
【能力評価の評価要素ごとの判断基準】	
(改正前)	(改正後)
十分発揮している	優れた能力を発揮している
概ね発揮している	期待通り発揮している
発揮していない	期待通りとは言えない

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



国際観光旅客税(以下、旅客税)法が、自民・公明・維新などの賛成多数で成立しました。来年1月7日からは日本から出国する2歳以上のすべての人が、航空券代金などに上乗せされ、出国1回につき千円を徴収されることとなります。これは、外国人観光客だけでなく日本人も同様です。

税金には、所得や財産の大きさに応じた課税が可能となる直接税と、各人の税負担能力を一切考えずに負担させられる間接税があります。代表的な間接税には消費税がありますが、今回新たに導入される旅客税も間接税の一種です。

例えば250万円のファーストクラスで日本とパリを往復する人も、1万2千円の格安航空券で日本とソウルを往復する人も、負担は同じ千円です。前者は運賃の0.04%にすぎませんが、後者は8.3%もの負担増となります。少しでも費用を抑えて海外旅行を楽しもうとする庶民にとっては、明らかに不公平な税金です。

政府は旅客税の使い道について、快適な旅行環境の整備や、日本の魅力の情報発信などと極めて抽象的な説明に終始しました。とにかく財源の枠組みだけを大急ぎで作り、あとは政府の都合で使い道を広げられれば、新たな無駄遣いの温床にされかねません。

来年10月に、消費税率10%を強行しようという方針が明らかにならねばならぬ。働く者の賃上げは一向に進んでいません。その上、個人に新たな負担を求めれば、経済活性化の力ギとなる個人消費も停滞するばかりです。個人の尊重・法の下での平等・生存権・財産権の保障を定めた日本国憲法から導かれる、応負担原則にたった税制改革こそ求められます。

(表面より)

- 今回の変更は、「評価者・被評価者間の面談における意思疎通など『認識の差』を縮小するために行った。
- 今までの評価の考え方や評価の基準は変えない。
- 昨年度までの「概ね達成している」の基準と、今年度より「達成している」の基準は同じである。
- 「評価」は、客観的で公正なものでなければならない。
- 校長によって評価の基準は変わらない。
- 自己申告票の目標は、当該教職員が主体的に設定し、校長が承認するものであり、校長が一方向的に当該教職員の目標を変更することは考えていない。
- 自己評価は、評価者によって一方向的に変更されてはならない。
- 以上確認されたことは、各学校の評価者に対し、府教委が責任をもって周知徹底をはかること。



生々しい実態が報告されました

# 森友・加計疑惑の真相究明、内閣総辞職求めて全国で怒りの声

連日のように報道され、深まるばかりの森友・加計疑惑の真相究明と内閣総辞職を求めて、「9条改憲NO! 森友疑惑徹底追及! 安倍内閣は総辞職を! 4・14 おおさか総がかり集会」が4月14日、駒公園で開催され2000人があつまりました。

「安倍政権は退陣を」「改ざん内閣さよなら」など、安倍内閣に対する怒りを表した色とりどりのプラカードや横断幕が会場のおちこちで見受けられた今集会。国会前の抗議行動に呼応して全国各地でとりくまれました。

しないさせない戦争協力関西ネットの中北龍太郎共同代表が主催者を代表して、「改ざん・隠ぺい内閣は総辞職を。こんな政権に憲法9条に自衛隊を書き込ませるわけにはいかない」と力強くあいさつしました。

集会には4野党の代表が参加し、国会でのやりとりや安倍政権の嘘とごまかしで塗りかためられた生々しい実態などが報告されました。



集会には2000人が集まりました

集会後は、雨の降りしきる御堂筋を通ってなんばまでパレードし、「安倍内閣NO!」「憲法こわすな」のプラカードをかかげて道行く人々にアピールしました。大障教からは8人が参加しました。

## 新しい仲間を迎え、各分会での趣向を凝らした新歓のとりくみ (その2)

### 「図書室いっぱいの歓迎昼食会」

### 泉北支援学校分会

4月11日(水)、泉北分会主催の新転任者歓迎昼食会をおこないました。各学年からたくさんの方が参加してくださり、計37名での昼食会となりました。会場となった図書室はいっぱいになり、わいわい楽しい昼食会になりました。全員で輪になり、お弁当を食べながら、順番に自己紹介をしていきました。趣味や好きなもの、最近のできごとなどそれぞれ発表し合いました。

なかには「最近お酒を飲みすぎて失敗したできごと」で会場の笑いをとる先生もいました。また、「自分がしんどかった時、産休・育休を取る時、分会の先生が優しく声をかけてくれた」と話した先生もおられました。自分の親世代の良き時代の教員生活の楽しそうだった話をした先生もいて、「今は

ずいぶん窮屈になったなあ」と改めて思いました。たくさん先生に参加していただいた楽しい昼食会でした。この中でひとりでも多くの先生が組合に入っていただけだと嬉しいですね。

### 寄宿舎教員部です!

今年度、大阪府立支援学校の寄宿舎は、南視覚14名、中央聴覚15名、北視覚15名の教職員でのスタートとなりました。

4月16日(月)に寄宿舎教員部会を開き、各校から6名の参加で会議をおこないました。今年度の寄宿舎教員部の体制の確認、総会に向けて、全国寄宿舎学習交流集会in和歌山について話し合いました。2018年度の総会は6月23日(土)10時から、たかつガーデンで行います。全国寄宿舎学習交流集会については、今年は和歌山で行われるので、大阪からもたくさんの参加と、大会成功にむけて協力(レポート、大会要員など)をとの呼びかけに応じていこうと話し合いました。

寄宿舎教員部は、再任用はフルタイム勤務しか認められないこと 市立では認められていた病欠の代替者の宿直勤務を府立では認められないこと 育児短時間勤務の教員の雇用条件が実態に合わないこと 採用試験がこの14年間行われていないことなど、多くの課題も持っています。府教委と交渉して改善を求めてきた中で、代替者の宿直勤務が認められるなど、改善されたところもありました。

また、寄宿舎の入舎条件も大きな課題です。府教委は寄宿舎の役割は「通学保障のため」と本来の役割から狭めており、通学時間1時間以上で4泊できることを入舎条件としています。寄宿舎の大きな役割である教育的配慮が入り込む余地がない状況です。

寄宿舎を取り巻く状況は大阪でも全国的にも厳しいものになってきていますが、3校で協力しあい、今年度もがんばっていきます。

5月1日号は休刊とします